

## 2018 年度第 2 回支部集会【北海道支部】

2018 年 7 月 14 日(土)

北海道大学国際連携機構

主催:公益社団法人日本語教育学会

共催:北海道日本語教育ネットワーク・北海道大学国際教育研究センター

会場:〒060-0815 札幌市北区北 15 条西 8 北海道大学国際連携機構国際教育研究センター2F

交通アクセス:<https://goo.gl/15vMAI>

※JR 札幌駅北口より徒歩 20 分, 地下鉄南北線「北 12 条駅」より徒歩 10 分

※ご来場の際は, 公共交通機関をご利用ください。

参加費: 無料

※おおよその人数把握のため, ご参加予定の方は, [学会ウェブサイトのマイページ](#)から7月11日までに事前参加登録をお願いいたします。事前参加登録について詳しくは, [こちら](#)をご覧ください。会場に余裕があれば当日参加も可能です。

問合先: 公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会(平日 9~18 時のみ)

E-mail: shibu@nkg.or.jp TEL: 03-3262-4291

### ◆支部集会日程◆

2018 年 7 月 14 日(土)	
12:30	受付開始(大講義室 209 前)
13:00-13:20	開会挨拶・交流ひろば出展ブースの紹介(大講義室 209)
13:20-14:50	交流ひろば(大講義室 209)
14:50-15:00	閉会挨拶(大講義室 209)

## 開会挨拶・交流ひろば出展ブースの紹介

【13:00-13:20 / 大講義室 209】

## 交流ひろば

【13:20-14:50 / 大講義室 209】

※「交流ひろば」は, 日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。「交流ひろば」への出展は, 学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。



① **音読と学び合いを基軸とした非漢字圏学習者への漢字教材**

**鈴木紀子(北海道大学)**

今年4月から北大で開講されている漢字1Aクラス(非漢字圏漢字未修者対象)で、開発しながら使用している紙教材とパワーポイント教材(音声付き)をご紹介します。一部の学生は、ひらがなも文法も未習の状態から学習をはじめ、16週間で約170個の漢字とそれを用いた語彙を習得することを目指しています。クラスでは媒介語として英語を使用しています。教材の使用方法や授業の進め方をご紹介しますので、皆様から改善すべき点など、ご意見がいただければと考えています。

② **「今ここにいる自分」のための自分史エッセイ作成の試み**

**藤原由紀子(関西学院大学), 山本真理(同), 中野陽(同)**

交換留学生を対象に行ったプロジェクトワーク型授業、自分史エッセイ作成の実践を紹介します。「今ここにいる自分」に意識を向け、留学というものを自分の人生の中に位置づけてほしい。自分の周りの環境に積極的に働きかける自信と態度を持ち、「今」「ここ」を充実させてほしいという思いから、授業を考えました。興味のある方々と情報共有、意見交換させていただければと思います。

③ **留学生と日本人学生の異文化交流における大学内サークルの果たす役割**

**森良太(北海学園大学大学院生)**

大学内の異文化交流サークルに所属する留学生と日本人学生のネットワーク形成や異文化交流について研究しております。活動の活性化や効果的な支援の方法などについて、多くの方々と意見交換をさせていただけたらと考えております。

④ **大人数クラスにおける日本語教育の実践**

**クラスナイいづみ(カナダ・サスカチュワン大学)**

日本語をはじめとする外国語のクラスは、少人数が理想ですが、現場の事情により必ずしも少人数クラスが確保できない場合もあります。大人数のクラスを持っている先生方は、どのような工夫をされていますか。大人数クラスで気を付けていること、実践例などを共有しませんか。

⑤ **台湾人日本語学習者コーパス(CTLJ)を基に開発したシステムの紹介**

**黄淑妙(台湾・国立成功大学)**

私たちは台湾人日本語学習者コーパス(CTLJ)からのデータを基に開発したeラーニングや、オンライン日本語作文支援システム、CTLJ誤用辞典、日本語コロケーション支援システムを開発しております。今回の「交流ひろば」では上記したシステムの詳細を日本で紹介することで、ご来場の方に我々の研究を知ってもらいたいと思っております。それだけでなく、現在のコーパス研究をいかに日本語教育の現場に貢献するか等の具体的な意見を皆様から頂けたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



⑥ 多文化交流科目「北海道再発見」の実践

小林由子(北海道大学)

日本語を媒介とした日本人と留学生の共修授業「多文化交流科目:北海道再発見」の実践について報告します。地域のリソースを使い、グループで情報をシェアしながら、日本語母語話者と非母語話者が共に発見していく方法について共有したいと考えています。大学に限らず、地域の日本語学習にも還元可能かと思えます。興味のある方、是非、お話ししましょう。

⑦ 日中接触場面に見られる日本語学習者のほめ表現とその返答—日本語母語話者同士の母語場面との比較をもとに—

張梓旋(山梨大学学生), 奥村圭子(山梨大学)

今回、中国人日本語学習者の日本語母語話者との接触場面で交わされるほめ表現とその返答についての研究をご紹介します。日本語母語話者同士のほめとその返答の特徴と比較したところ、多くの発見があったと同時に、データの収集や分析方法などについても疑問点も出てきています。接触場面の言語行動やほめ表現にご興味のある方と共に、意見交換ができればと思っています。

閉会挨拶

【14:50-15:00 / 大講義室 209】

以上

